

PRESS RELEASE (2024/10/23)

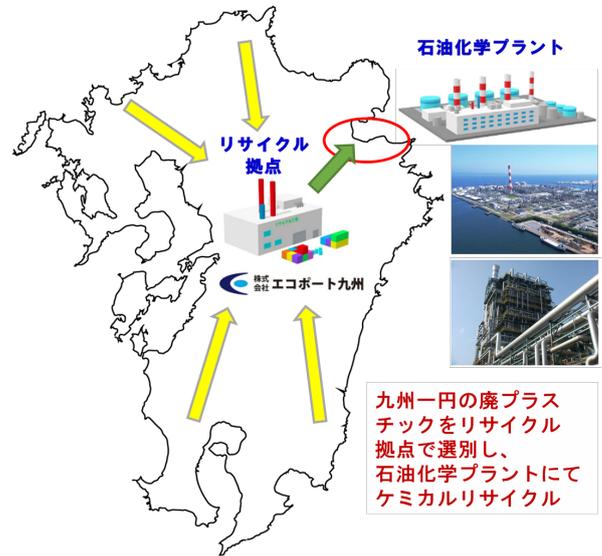
廃プラスチックの循環スキーム構築加速を目指し、連携協定を締結

2024年10月23日（水）、株式会社エコポート九州は九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター、株式会社レゾナック、丸紅株式会社、三井住友信託銀行株式会社との連携協定を締結しました。この協定締結により、廃プラスチックを適切に分別し、資源として活用するマテリアルリサイクルとケミカルリサイクルのベストミックスによるリサイクルプロセスの構築と早期社会実装を目指します。

廃プラスチックの資源化には高度分別が必要

当社では創業以来14年間に亘り機械的手法によるマテリアルリサイクルを中心に廃プラスチックの再資源化事業を行っております。2022年4月にはプラスチック資源循環促進法が施行されるなど、リサイクルに対するより高度な技術へのニーズが高まっており、来たるべき循環型社会形成に向けての取り組みを進めております。その一環として九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター、株式会社レゾナック、丸紅株式会社、三井住友信託銀行株式会社が、九州地域において産業界や自治体から排出される様々な廃棄物や未利用資源を活用する九州地区初の地産地消型プロセス確立を目指し、2024年1月に形成された資源循環型社会九州モデル構築のための共同事業体である「知の拠点」との連携協定を締結いたしました。

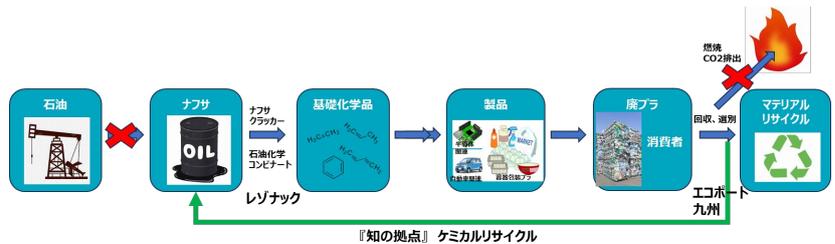
高度利用に向けては、雑多な廃プラスチックを適切に分別し、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルに供する技術が不可欠であり、九州地域で排出される廃プラスチックによるマテリアルリサイクルとのカスケード利用も視野に入れたケミカルリサイクルプロセスの九州地域への社会実装を目指します。



九州一円から集められた廃プラスチックを高度に分別することで効率良く石油代替資源に変換可能。

九州地域でのケミカルプロセスとのベストミックス

九州地域から回収した廃プラスチックを当社にて選別して効率良く資源化したのち、「知の拠点」との連携により廃プラスチックの有機成分を熱分解・油化し、株式会社レゾナックが保有する石油化学プラントに投入、基礎化学製品に変換するプロセスを構築します。九州地区から排出された廃プラスチックを九州圏内で基礎化学製品に変換する地産地消型プロセスを確立し、「ゼロカーボン」「環境保全」と「経済循環」を両立させる資源循環社会九州モデルの社会実装を目指します。



廃プラスチックを基礎化学製品に変換することで、石油代替資源として活用し、プラスチックに戻すことが可能